

予行の話

いよいよ明日は、卒業式になります。

卒業式は、大きな学校行事で、三年生にとっては大きな節目の式です。文部科学省が作った、学校で子供たちに教えるべき内容が書かれている学習指導要領には、「^{げんしゆく}厳肅で^{せいしん}清新な雰囲気」の中で行うことと書かれています。

厳肅とは……おごそかで心が引きしまるさま、まじめで厳しいさま
清新とは……心が改まって折り目正しい気持ちになること
です。

例えば、結婚式は、披露宴と違い、イベントがあったり、衣装替えがあったりはしません。決まった作法で、決められたことを肅々と進めていきます。それと一緒に、式、儀式というのは、そういうもので、集会や式典とは違います。かたぐるしいものです。

いよいよ明日は、卒業式になります。主役は、三年生ですが、参加する全員にとっても大きな学校行事です。みんなが式の意義を理解し節目にふさわしい儀式を完成させられる大人になってほしいと思います。

さて、明日の卒業式には、やり投げの北口はるか選手の話をしてしようと思っています。あのオリンピックで金メダルを取った北口選手ですが、やり投げをしようと思った大学で、初めてのけがをします。しかも、指導者も辞めてしまい、どうやってけがを克服したらいいのか、どんな練習をしたらいいのか悩みます。そして、決勝進出間違いないと言われていた大学三年の日本選手権でまさかの予選敗退となります。そのときのことを本人は、「沼に突き落とされたような気持ちになり、不安でどうしていいか分からなかった」と、いっています。

人生の中には、ピンチな時は必ずあります。そのときにどうしたらいいか、そのときの自分の行動で、未来が変わってくると 생각합니다。明日は、そんな北口選手が行った、切り抜けるために必要なことについてのお話しをして三年生を送りたいと思います。

令和七年三月十三日

瀬戸内市立邑久中学校校長 松田典久